



太陽の子

さいたま市立常盤小学校だより
令和4年6月号(第3号)
令和4年6月1日発行

【学校教育目標】

心身ともに健康で 思いやりの心もち 主体的に学ぶ常盤っ子の育成

喜んで登校 満足して下校

【めざす児童像】

- よく考える子
- 思いやりのある子
- たくましい子
- かかわりあいを大切にする子

いじめをしないつよさ

校長 三島 公夫

運動会にはたくさんの保護者の方々にご来校いただき、ありがとうございました。また、感染症対策への皆さまのご理解とご協力により、スムーズに進行することができました。運営にご協力をいただきました PTA 役員、サポーターの皆さまにも感謝申し上げます。

今年の運動会のスローガンは、「勝ち負けにこだわらない 笑顔あふれる運動会」。全力を尽くせば結果はどうであれ、熱い汗が流れ、爽やかな感動に包まれることを子どもたちは実感しました。熱い汗は身体を鍛え、爽やかな感動は仲間意識を高揚させることにも気が付きました。あふれる笑顔が「喜んで登校、満足して下校」のきっかけになれば、と思います。

さて、6月は、いじめの問題について考え、いじめを許さないという意識を高める「いじめ撲滅強化月間」です。

これまでも学校では「いじめは卑怯であり、絶対に許されない」ことを指導し、保護者や地域の方々にもいじめ撲滅にご尽力をいただいているところです。例えば、いじめにあったり、いじめを見かけたりしたら必ず相談すること、いじめの傍観者をなくすこと、いじめをしないようにするために自己有用感をはぐくむこと、などです。しかし、いじめは後を絶ちません。どうしたらいじめを思いとどまり、傍観から抜け出すことができるのか。本校の教職員も、スクールロイヤー（弁護士）や市教委の個別の指導を受けながら指導力の向上や指導体制の点検に取り組んでいます。

いじめの理由は様々ですが、自分の気持ちを抑えられない、何らかのストレスで他人を攻撃するなどのように、自己中心的事であることは共通しています。この点について、トラブルに関する架空のケースを取り上げて「公平な立場からどう判断するか」と問うて、自分と他者を公平に観察する術を身に付けたり、傍観に対して「そうではない行動をすることができたのではないかと振り返りを促したりすることは、日常の指導や声かけでできることです。

これまでの自分を振り返って、「あれをやった」と自慢できるのは立派なことですが、反対に「あれをやらなかった」というのも誇れることだと思います。私たちはつい「何をしたか」で人を評価してしまいがちですが、例えば「人の気持ちを傷つけないかった」とか「悪口を言わなかった」、「差別をしなかった」というように、「何をしなかったか」という生き方も崇高だと思うのです。

タイトルに「いじめをしないつよさ」と掲げました。どんなことがあっても「これだけはやるまい」という人としての矜持を守り通す、このことをしっかりと理解し、実行できるようにしなければなりません。